

仮設住宅に国産材活用

キット提供へ連携確認

木材利用に積極的に取り組む全国の自治体や企業、団体が森林地域の活性化策などを探る「第2回全国木のまちサミット2016」(同実行委主催)が3、4の両日、早川町内で開かれている。初日は国産材の活用策として、木造仮設住宅のキットを作り、全国で備蓄する取り組みが提案され、参加者が実現に向けてネットワークを構築することに同意した。

早川で木のまちサミット開幕

持続可能な林業振興のヒントを探った「全国木のまちサミット」＝早川町役場



〈橋田俊也〉

国や自治体、企業などから約1500人が同町役場に集まった。2014年11月に初回サミットの会場となった岩手県住田町の多田欣一町長は、大規模災害時に多くの仮設住宅が必要になるとして、国産材の活用を提案。プレハブなどと比べて建設に時間がかかるとの懸念、あらかじめ部品を作って保管するべきだとの考えを示した。

サミットの参加団体がネットワークをつくる必要性も指摘。キットが提供しやすいように、全国各地で備蓄しておくべきとした。

また地元木材を使った早川

町役場の設計を担当した事務所(代表者は、町内で切り出した木材の加工を秋田、福島両県で行ったと報告。国産材の消費低迷などの影響で、産地で高度な加工ができない状況を指摘した。

サミットの司会を務めた成蹊大の広野良吉名誉教授(環境経済学)は、産地や消費地などが互いの役割を認識することが重要との考えを示し、「各地で林業を取り巻く問題を真剣に考えるように呼び掛けてほしい」と訴えた。

実行委員長の辻一幸早川町長は「サミットを森林で眠っている木材を世に送り出すきっかけにしたい」と話した。



ピンク色の花を咲かせた彼岸花＝山梨・根津記念館

ピンク色の彼岸花
来館者をお出迎え
山梨・根津記念館
山梨市正徳寺の根津記念館

若者の参加増へ魅力ある活動を

忍野でユネスコ研究会



ユネスコ活動について議論した研究会
＝忍野村民ふれあいホール

中部東ブロックユネスコ連絡協議会と忍野ユネスコ協会などは3、4の両日、忍野村民ふれあいホールなどで「2016年度中部東ブロック・民間ユネスコ活動研究会 in 忍野」を開いている。

初日は同ホールで開会式を行い、忍野ユネスコ協会の長

田五月会長が「ユネスコ活動へ参加する青少年が少なくなっている。若い人が魅力を感じる活動をするのが大切」とあいさつした。日本ユネスコ協会連盟評議員の牧野健太郎さんによる「浮世絵から江戸にタイムスリップ」と題した講演もあった。

この後は同村生涯学習センターへ場所を移し、分科会も行った。参加者は「民間ユネスコ活動の現状とこれからの展望」など三つのテーマで意見交換。4日は各分科会で議論された結果の報告などを行う。

中部東ブロックは山梨、静岡、長野、神奈川の4直

綱、長野、神奈川の4直轄協を構成。毎年1回、持ち回りで研究会を開催している。

〈清水一

純国産ワインの品質を競う「ジャパン・ワイン・コンペティション(日本ワインコンクール)2016」(同実行

堪能 式飲会

に賞状を手渡した。表彰式の前後にあった公開テイスティングには、一般公募からワインの特色などについて説明を受け、色や香

プリネタリウムと



で、彼岸花の一種「リ・シヤクソニア」がピンクの花を咲かせ、来館者を楽しませている。

同館によると、2000の開館に合わせて植栽員が毎年株分けをして、株以上まで増やした。8月末から咲き始め、9日は楽しめるという。館には赤色や白色の彼岸花